

モザンビーク共和国月報（2019年6月）

主な出来事

【内政】

- 大統領選挙〔ニュシ大統領がフレリモ党の大統領選候補者として正式登録〕
- 和平プロセス〔レナモ党内紛〕

【外交】

- ニュシ大統領の外国訪問（エジプト公式訪問）

【経済】

- 世銀「Doing Business (Subnational) Mozambique 2019」発表
- 米国・アフリカ・ビジネスサミットの開催
- ロブマ・ガス田 Area1 最終投資決定

【内政】

大統領選挙〔ニュシ大統領がフレリモ党の大統領選候補者として正式登録〕

（1）10月15日に実施される大統領選に際し、6日、フレリモ党はニュシ大統領を候補者として擁立する旨の書類を憲法討議会に提出した。ニュシ大統領は、2期目の任期をかけて選挙戦に臨む。

（2）再選の公約として、汚職撲滅、モザンビークの発展を妨げている障害の撤去を掲げ、国民の協力を求めた。再選への立候補は、国民の思いに感化されたもので、モザンビーク発展のための人材育成を中心とする党の選挙公約にもその思いは反映されていると話した。二期目では、グッドガバナンス改善の継続及び民主主義の実践、地方分権化パッケージの導入を目指すと付け加えた。他の公約として、ニュシ大統領は、機械化農業への投資、雇用の促進、生産及び生産性の増大及び競争力向上を通じてより多くの国産品の市場への参入を増加させたいと述べた。

（6月7日付、ノティシアス紙）

和平プロセス〔レナモ党内紛〕

（1）最大野党であるレナモは、分裂の状況にある。自称レナモ軍大将のシジンガ氏は、永続的な和平実現に向けて与党フレリモとの間で進められている交渉を無視すると脅迫した。13日、ゴロンゴザの基地において、同氏は、モマデ党首が作成した国軍及び警察に配置予定のレナモ軍人リストの公平性が不透明であるとし、「武装解除、復員及び社会復員（Disarmament, Demobilization, Reintegration-DDR）」に応じないと発言した。同氏によると、レナモ軍には下士官から中将といった多くの兵士がいるにも関わらず、現状のリストでは將軍のポジションに配置予定の軍人はおらず、軍人ではないモマデ党首の友人ばかりが配置されることとなっており、我々の要求と一致しないと主張し、モマデ党首は、過去に全警察署長を解雇したが、今度は下士官を含めた全ての

レナモ軍兵士を一掃し、自分の友人を起用して、新生レナモ党を作ろうとしていると批判した。シジンガ大将が指揮するレナモ軍は、7月15日までにモマデ氏が党首を辞任するよう脅迫している。

(2) 同脅迫に対して、マンテイガス・レナモ党スポークスマンは、ゴロンゴーズにおける状況は問題ないとした上で、レナモは分裂しておらず、政府と協力して、大統領選が行われる10月15日までにDDRを完了させるべく努力する旨約束した。同スポークスマンは、レナモのゲリラ兵の発言には関わらないスタンスであり、彼らは脱走兵であるとした上で、「モマデ党首及びレナモは、そのカリスマ性、責任感、献身的な仕事に影響をもたらすことを目指した中傷的な演出には関わらない。レナモが有する考えは、国内外におけるレナモのイメージアップに貢献してきており、モザンビーク国民に自信と期待を与えてきた。国民にも幅広く受け入れられており、上記の挑発は悪影響である」と述べた。

(6月14日付、オ・パイス紙)

【外交】

ニュシ大統領の外国訪問（エジプト公式訪問）

(1) ニュシ大統領は、21～23日、エジプトを公式訪問した。エジプトの大手企業の一つは、今後5年間で開発が進められるロブマのガス田に起因した電力生産を行い、それを住民に供給したいと考えていると話した。これに対し、ニュシ大統領は、今回の訪問は天然資源開発の新しいフロンティアを切り開くものと位置づけていると話した。

(2) 経済ミッションを同行した今回の訪問では、多くの企業家が起業フォーラムに参加し、エジプト企業のモザンビーク投資及び参入の関心の高さも窺われた。モザンビーク国内で活動しているエジプト企業はあまり多くはないが、モザンビークは順調に経済成長しており、今後、商業、サービス、保健、観光、ロジスティック、農業の分野で国際競争力を有する可能性がある。

(3) 経済的な議題の他、両国の外交旅券所有者の査証を免除する旨の覚書が締結された。具体的な開始時期については明言されていないが、ニュシ大統領は、「二国間の協力関係強化に関心を有する人の往来を簡素化することに繋がり、モザンビーク側としては、政府の重点事項として掲げている経済関係の促進に繋がる」と話した。また、政治面、農業及び食の安全保障についても協力を確認した。保健分野においては、ニュシ大統領より、がん罹患した子供や移植手術が必要な患者をその分野で豊富な経験を有するエジプトに移送することを要請した。

(4) 両国共通の関心事項であるテロ対策についても話し合われた。ニュシ大統領は、民間人を殺害し、財産を強奪・破壊する武装集団がモザンビークに出現していることに言及した。エルシーシ・エジプト大統領は、アフリカ大陸に脅威をもたらして

いるテロ集団を一掃するためにモザンビークと協力する用意があると話した。
(6月22日及び24日付, ノティシアス紙)

【経済】

主要経済指標

- ・ 名目 GDP : 123.3 億米ドル (2017 年世銀)
- ・ GDP (1人あたり) : 415.7 米ドル (2017 年世銀)
- ・ GDP 成長率 : 2.9% (2017 年, IMF 推定)
- ・ 輸出 (通関ベース) : 47.19 億米ドル (2017 年中銀)
主な輸出品は, 石炭, アルミニウム, 電力, 天然ガス, たばこ, 重砂, 砂糖, 果物。
- ・ 輸入 (通関ベース) : 51.83 億米ドル (2017 年中銀)
主な輸入品は, 機械類, ディーゼル, ポークサイト, 建築資材, 電力, 医薬品。
- ・ インフレ率 : 5.65% (2017 年通年, 国家統計院)

経済関連など

マクロ経済状況

- ・ 19 日, 中銀金融政策委員会 (CPMO) は政策金利 (MIMO) を 100 ベースポイント引き下げ, 13.25%とした。また, 預金金利を 10.25%に, 貸出金利を 16.25%にそれぞれ引き下げ, 強制預託金利を国内通貨 14.00%, 外国通貨 36.00%にそれぞれ据え置いた。
- ・ 年間インフレ率は 4 か月連続で下落し, 引き続き中期的に 1 桁台の低水準を維持すると見通される。2019 年 5 月の消費者物価指数は 2.42%。
- ・ 国家統計院 (INE) によると, 第一四半期の実質 GDP は 2.5%と停滞。一方で, 中期的にはサイクロン被害からの復興と天然ガス事業の具体化により, GDP は回復する見通し。
- ・ 名目通貨価値は回復し, 4 月 24 日の 1 ドル 64.63 メティカルから 6 月 18 日には 61.75 メティカルまで回復した。また, 対南ア・ランドでも 1 ランド 4.60 メティカルから 4.18 メティカルまで回復。
- ・ 外貨準備高は 8,600 万米ドル増加し, 31 億 3,360 万米ドルとなり, メガプロジェクトを除く輸入の 6 か月分に相当。
- ・ 公的債務は増加した。国債や長期国債, 中銀借入れによる公的債務は, 前回の CPMO 時より 92 億 7,400 メティカル増の 1,315 億 4,700 万メティカルとなった。(6/19 中銀プレスリリース)

非開示債務問題 : Ematum 社債務の無効判決

4 日, 当国憲法評議会は, Ematum 社債務及び 2013 年の政府保証債務全ての 無効判決を下した。本判決により, 計 20 億米ドルの 3 つの非開示債務全てが無効, かつ, 政府保証が違法となる。

世銀「Doing Business (Subnational) Mozambique 2019」発表

5日、世銀は「Doing Business (Subnational) Mozambique 2019」を発表した。同レポートはモザンビークでは初の全国的ビジネス環境レポートで、国内の10州の主要都市及び4か所の税関のデータを収集し、SADC、サブサハラアフリカ、ポルトガル語圏国家共同体(CPLP)、OECDなどと比較して評価。評価される項目は起業、資産登記、契約履行、貿易の4部門で、それぞれの手続き数、コスト、所要日数などの指数が算出された。(6/5 オ・パイプ紙, 6/6 ノティシアス紙, Carta de Moçambique 紙)

千代田化工が Areal 設備の設計・調達・建設を受注

6日、千代田化工はモザンビーク向け天然ガス諸設備の設計、調達、建設(EPC)を受注した。同社の業務及び責任範囲はSaipem及びMcdermott社が実施する設計のレビューを主とする技術的サポートとなり、受注額は10億~30億円程度に留まる見込み。(6/6 千代田化工プレスリリース)

ロブマ・ガス田 Areal 最終投資決定

18日、米アナダルコ社が主導するコンソーシアムとモザンビーク政府は、カーボデルガード州ロブマ・ガス田のLNG事業に対する最終投資決定(FID)を締結し、ニュシ大統領同席のもと、公式発表した。モザンビークは2025年から年間21億米ドル、最終的に約610億米ドルの利益を得ることとなる。

式典にはムナンガグワ・ジンバブエ大統領、ムスワティ3世・エスワティニ国王、タバネ・レソト首相、その他各国、パートナー企業、モザンビーク国内民間企業代表者が出席した。(6/19 オ・パイプ紙, ノティシアス紙)

米国・アフリカ・ビジネスサミットの開催

19日から21日にかけて、第12回米国・アフリカ・ビジネスサミットがマプト市にて開催された。同会議ではモザンビークの加工業、アグリビジネス、交通インフラや電力などへの投資がテーマとなったほか、ジンバブエとの二国間航空協定、スタンダードバンクの投資家支援策などが発表された。

(了)